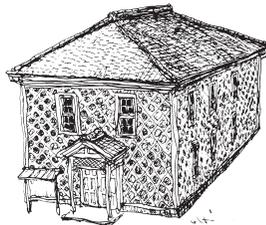


演説館



福澤先生とその門下生たちは、西洋のスピーチ、ディベートを研究し、わが国の「演説」を創始しました。三田演説館は、1875（明治8）年に開館した日本最初の演説会堂です。

● 医学部長

かないたかのり
金井隆典

ピンチはチャンス

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。

私も約40年前に皆さんと同じように慶應義塾大学に入学しました。日吉校舎の銀杏並木を今は亡き母と上り、立派な旧日吉記念館での入学式に出席したことを今でも鮮明に覚えています。当時は生意気盛りで、入学式当日の夜、両親に感謝の気持ちを表すことができなかつたことを、今でも悔やんでいます。これは先輩からのアドバイスですが、これまで大切に育ててくれたご両親、学校の先生、友人には、「感謝」の気持ちを表しましょう。これからも、さまざまな場面で「感謝」という大切な感情を常に持ち続けていただきたいと思っています。

今なお、世界中が新型コロナウイルスオミクロン株の流行中であり、皆さんはさまざまな制約を余儀なくされています。そんな中、クラブ活動、友達付き合い、アルバイトなども制約される中で、皆さんが、これからどう生きていくのか、私には非常に興味があります。これまで、政府や自治体への批判、コロナ感染者、医療従事者への差別など、他者に対して、概ね否定

的な意見が蔓延していました。しかし、実際は、ほぼすべての国民は、今この瞬間を大切に、何とかこの得体の知れぬ難敵を克服しようと前向きに生きています。他者を思いやり、諦めずに、社会を良い方向に先導する人材こそ、今、ここに入学を迎えられた新しい慶應義塾社中と私は信じています。

さて、皆さんは、そう遠くない将来、親から独立し、経済的にも社会的にも独立していくことでしょうか。しかし、順風満帆で人生を終える人などはごく限られた例外であり、大抵の人は、さまざまな困難に幾重にも直面すると思います。どのように先輩たちはこれらの困難を乗り越えてきたのでしょうか？ この答えは、私は「ブレない夢」を持ち続けることだと思っています。ぜひ、大学生活の中で、「ブレない夢」を探し、それを持ち続けて、これからの人生に活かしてもらいたいと思います。感謝の気持ちと「ブレない夢」を持ち続けていけば、きっと、大抵の困難は克服できるものです。慶應義塾はそうした皆さんを応援していきたいと思っています。